

第1回長野市都市内分権審議会 議事の内容

と き 平成17年5月13日(金)午後1時30分～
ところ 長野市ふれあい福祉センター5階ホール

1 委員の委嘱

2 会長・副会長選出

会長に沼尾史久委員、副会長に花岡勝明委員が選出される。

3 諮問

4 議事

事務局から、資料についてそれぞれ説明

先進市(福岡県宗像市)の事例をビデオで紹介

意見交換(要旨)

- ・市議会では、都市内分権検討小委員会というような委員会を既に作っているのか、あるいはこの都市内分権の論議が進展するに従ってそういうものを設置しようと考えているのか。
- ・参考資料にある新友会のアンケート結果や、区長会の要望事項は、一旦案が示されたものに対する反応が示されており、生の声に近いので、その説明の時間を割いて欲しい。
- ・都市内分権という発想は素晴らしい。しかし、住民が自らの手で地域を活性化したり、問題を解決していくことはできるわけがない。そういう訓練を受けていない。
- ・今回の提案は、極めて行政の立場から提案されている。今までの行政の発想、あるいは住民の発想を転換しないと受け入れることができない。
- ・今までは、行政の効率化ということで縮小してきた。それを都市内分権で、総合事務所的なものをつくりたいということだが、それが果たして将来的に市民のために効果があるのかどうか検討する必要がある。
- ・地区の中で、中心になって周知などを進めていくのは、区長を中心にした組織がやっているのが現状。これからの行政も、今までに活躍してきた組織を大事にしていかないうまくいかないのではないかと。各地域の特性を生かすということについても、区長を中心に作り出していくというのが一番いいんだろうと思う。
- ・都市内分権について、住民の意識が進んでいないということは、はっきりとしている。
- ・地域の皆さんに活動に参加してもらえないという状況が日々強まっている。
- ・それぞれの地域の力を十分に発揮できる体制づくりが、長野市にとっていい結果になる。
- ・地域での取り組みは格差がある。この格差があるのに、都市内分権という言葉で括ると、間違った結果になる。
- ・長野市内の事例を知りたいので、30地区に出向いて、ワークショップ的に地域の皆さんの意見を伺うというようなことをやっていただけないか。
- ・愛知県の豊田市では、支所機能を充実させるには生活環境整備ということを考えると技術職員の配置が必要で、それをやると職員が膨大に増える、という点で苦慮されている。
- ・住民自治協議会をつくり、職員を派遣して、組織を作ることになると、それぞれの役員の負担が増え、かえってコミュニティを醸成することに逆行するのではないかと。
- ・合併する前は、公民館に人件費や交付金が出ていたが、長野市と合併して、少ないところでは従来の10分の1ぐらいの予算になってしまった。区には議員がいなくなって、区長は議員の仕事までしなくてはならない。会議は非常に多いし大変だ、という形になっている。
- ・行政効率で、今までは本庁に集めてきた。それをフィードバックするとなると、職員数が増えることになってお金がかかる。職員に頼るのではなく、コミュニティを使って市民の皆さんがどういう仕事ができるのか、どういうふうに協働すればいいのか。

- ・都市内分権自体が行政改革のツールであると思っている。
- ・都市内分権を行う目的は何なのか、というところが最初に議論されるべき。
- ・地域の悩みとすれば、まず人がいない、お金がないというところに尽きると思う。住民がどうしたら出て来れるかという方策を探らなければならない。考え方の一つとして、コミュニティビジネスで整理すると、地域の人の流れもできると思う。どうすれば地域に人材を確保することができるかというようなことを、分科会で検討すべきではないか。
- ・山間地と市街地では地域要望も全く違ってくると思うので、地域総合事務所が必要なのかどうか、その区切り方はどうするのかということを検討していただきたい。
- ・市の提案は、区長会から上の部分を考えている。住民や隣組など区単位の活性化の方にも目を当てていただきたい。地区全体でできること、区単位でしかできないものもある。住民自治協議会は各行政区にできれば一番活性化していくのではないか。
- ・いつまでに、何をどう決めて欲しいための会議なのか。人数も多いのでなかなか意見が言えない。分科会のように項目を出し合って自分の意見を言いたいというところに所属して意見を言うようにして欲しい。意見を紙で提出するというのも考える必要がある。
- ・都市内分権が必要なのかどうか、というところから話を始めないと、どうもやるものだという感じで話が進んでいる気がして仕方がない。
- ・地域公民館はコミュニティに一番携わっている。細かいところだがその組織などについて検討していく必要がある。
- ・資料9に、都市内分権についての主な市民意見・提案というのがあるので、これらについて時間をかけて討議していけば、いい案が出てくるのではないか。
- ・48ページの6の8「地域福祉計画を都市内分権に大いに取り込んでいただき、地域ごとの温度差がないように願います」とあるが、地域福祉計画はボトムアップ方式で、市民の策定委員会があって計画が立てられている。内容的には都市内分権とバッティングする部分がたくさんあるので、地域福祉計画の考え方を聞く場面があってもいいのではないか。
- ・昔は、例えば村で橋をかけようとなると、みんなで集まってやって、金がなければ少しずつ出し合って地域活動をやっていた。都市内分権は、地域住民に自分たちがやるという気持ちをもってもらって、行政はそれにお手伝いをしましょう、という方向であればいいと思う。ただ、今は市の仕事を減らして住民に押し付けるだけだというイメージがある。
- ・次回からは課題を出して、そのことについて考えてきて意見を言う形の方がすっきりする。
- ・住民自治活動の今後のあり方とか支所の機能、組織さらに総合事務所が必要であるか、というところに踏み込んでいかなければ、この審議会は発展性がない。
- ・分科会となると全般的に共通するところがあるので難しいところも出てくるのが、もし分科会を作るのなら、分科会の後には総体的な会を行うという形を繰り返すべきだ。
- ・なぜ、都市内分権が必要なのか、というところには、人口の減少に伴う税収の減少も予想されると書かれているが、お金がなくなるから地元のことは地元でやれと言われると、反発感を持つ。税金も払っているじゃないか、今まで市は何やってたんだ、となる。
- ・自分たちのことは自分たちで決められるというのは素晴らしいことだとも思う。
- ・地域福祉計画の中でたくさんの意見が出され、はっきりとまちの意識が現れていた。それぞれの市民の意見を取り上げて、個性豊かなまちをつくるための都市内分権ではないかということで、期待をする。
- ・アイデアのある非常に意識の高いまちと、そうでないまちがあることは事実。そういうところに行政なり私たちがフォローアップしていけるような審議会にしたい。
- ・都市内分権という難しい名前をつけたから、難しく捉えすぎている。
- ・長野市も財政豊かだったら何も分権だといってやることはない。

以上